

②キャッシュフロー計算書について



キャッシュフロー計算書

家計簿(1/1~12/1)

概要

- ①現預金の増減の理由が分かる
(本業で増えた、固定資産購入で減った
借入金返済で減った)
- ②期間が区切られている。(損益計算書同様)
- ③ほとんどの会社で作成の義務がない
(上場企業等一部企業のみ)

営業キャッシュフロー
(お給料・食費・クレジット支払)

投資キャッシュフロー
(時計・冷蔵庫・パソコン)

財務キャッシュフロー
(借入・住宅ローン返済)

現預金残高(期首)

1月1日現金

現預金残高(期末)

12月31日現金

②キャッシュフロー計算書について

Q. なぜキャッシュフロー計算書は

上場企業等には作成が義務付けられるのか

→A. 会社の規模が大きくなるほど

損益計算書、貸借対照表のみでは会社の実態を把握できないから

実態を把握出来ないとはどういうこと？

→「もうけ」とキャッシュの増加が一致しない

損益計算書を見ると利益が出ている。赤字ではない。

なのにお金が減っている・・・

なぜか？



②キャッシュフロー計算書について

利益とキャッシュの増加がズレる代表的な要因

- ①借入金の返済（お金が減る）
- ②減価償却費（お金が減らない）
- ③売上：売掛金（お金が入らない）

ほとんどの企業ではキャッシュフロー計算書を作らない。

では、**キャッシュフロー計算書の考えを使って**
実務において活用しましょう！

- ① 借入金返済は損益計算書に載らない。しかしお金は減る。
→返済額以上の黒字を出すことでお金が増えていく。
- ② 「減価償却は経費。でもお金は出ていかない。
その分会社にお金が残るんだな。」



利益≠
お金の増加

③～決算書の見方(損益計算書・貸借対照表)

見方のコツ

- ・ 大きなところ、結果から見ましょう！(森から木へ)
- ・ くらべて見ましょう！(過去・他社)

③～決算書の見方(損益計算書・貸借対照表)

○×駄菓子屋さん1期

①売上高	500万
②原価 (原価率80%)	400万
③粗利(①-②)	100万
④経費	50万
⑤純利益(③-④)	50万

○×駄菓子屋さん2期

①売上高	500万
②原価 (原価率85%)	425万
③粗利(①-②)	75万
④経費	50万
⑤純利益(③-④)	25万

③～決算書の見方(損益計算書・貸借対照表)

H29.2月末

資産の部	負債の部
8兆7509億	6兆8885億
	資本の部 1兆8624億

イオン(自己資本比率21.2%)

資産の部	負債の部
5兆5089億	3兆331億
	資本の部 2兆4758億

セブン&アイ・HD(44.9%)

④決算書を見る様々な立場の人・その目的



立場・視点が違えば見る目的も違います！

- 【経営者】 経営改善・方針判断**
- ・もうかっているか？資金はある？
 - ・自社の強みはどこか？
 - ・どこにコストが掛かっているか
 - ・去年と比べてどうか？
 - ・今後どうしていくか？

- 【株主】 投資先となりうるか**
- ・もうかっているか？
 - ・配当は出しているか？
 - ・1株あたりの価値は？

- 【金融機関】 融資をしてもよいか**
- ・余裕資金はどの程度あるか
 - ・他行での借入は(自己資本比率)
 - ・担保になる物件はあるか
 - ・借入を返済出来る利益があるか

- 【社員】 将来性・(就職先の判断)**
- ・もうかっているか
 - ・借入金はどのくらいか
 - ・お金はいくらあるのだろう

- 【取引先】 取引先として安心か**
- ・買い掛けの滞りはないか
 - ・仕入はどのくらいしているか
 - ・売上規模や利益はどのくらいか

決算書

- 【経理】 適正な会計処理・資金繰**
- ・会社の財産債務の状態
 - ・数値や仕訳のミスがないか
 - ・売掛や買掛の把握
 - ・気になるところはないか

- 【税理士】 経営サポート・税務判断**
- ・残高や仕訳に違和感はないか
 - ・仕訳の税務上の判断
 - ・決算書のバランス
 - ・気になる点は経営者にお伝え

- 【税務署】 不自然な数値はないか**
- ・同業種との比較
 - ・前期の数値と比較
 - ・棚卸の数値
 - ・収益の計上漏れはないか